

令和 4 年度 県立水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像		民主的な国家及び社会の形成者にふさわしい資質・能力を身に付け、社会の中核として活躍する、心豊かな人間の育成		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成状況
1 新型コロナウイルス感染対策を行いながら、授業、行事、部活動を少しずつ新しい日常にシフトしてきた。保護者による学校評価アンケートでは「学校行事は活発である」に肯定的評価 74% (前年度比 25ポイント上昇)であった。課題としては、授業時間確保のための係教師の負担が加重であること、生徒が主体的・対話的な学習習慣を確立するために、各教科の生徒向け課題の質と量の精選を行うことが必要である。その結果、生徒による授業アンケートで「予習をして授業に臨んでいるか」の肯定的回答を全体で 70% (令和 3 年度 53%) を目標にする。 2 令和 3 年度卒業生の国公立大学合格者は、137 名、合格者数としては近年最高を記録した。高い志をもって多くの生徒が進学を希望している。大学で何を学び、それをどのように活用して社会と自分の未来を切り拓いて行くか、保護者による学校評価アンケート「進路情報が豊富」肯定的回答 72%を、今年度は全体で 80%まで上昇するよう、受験環境の変化を捉え、教育課題と授業改善を一体的に推し進めて行く。 3 適応障害等から進路変更に至る生徒が増えている。自らの命を尊重する強さを育み、生徒が現実社会で生き抜く力の修得に取り組むためなお一層のカウンセリング体制を整える必要がある。保護者によるアンケート「生徒の悩みの相談によくのっている」肯定的回答 76%を 80%台に上昇させる。		1 豊かな人生を切り拓く、学びに向かう力、人間性等の育成	(1) I C T機器(タブレット、電子黒板等)を活用した、協働的な学び合いの推進① (2)探究力を育む教科横断的・課題解決型授業の実践② (3)「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った探究活動の充実③ (4)「思考力・判断力・表現力」を育成する言語活動の充実④ (5) S S Hの学びを活かした、未来を担う科学技術分野で活躍する人間の育成⑤ (6)自主的・能動的な学びの確立 (学校図書館活用の促進、学習動画の活用等) ⑥	
		2 生きる力を育む、キャリア教育の推進	(1)進路希望を実現する、キャリアカウンセリングの充実⑦ (2)キャリア形成を視野に入れた、キャリアパスポート等を利用した個別進路指導(個別面談)の充実⑧ (3)思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の推進⑨ (4)豊かな人間性と社会性を身に付けるための特別活動及び部活動の充実⑩ (5)社会のリーダーとして活躍するための、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の育成⑪ (6)国際理解教育を推進し異文化を理解するとともに他者を尊重する態度の育成⑫	
		3 生徒が安心して学べる学校づくり	(1)自律的で責任ある生活習慣の確立⑬ (2)一人一人の悩みや不安に寄り添う教育相談体制の充実⑭ (3)心を育てるグループワーク等を活用した温かな心の育成と望ましい人間関係の構築⑮ (4)校内安全点検の徹底及び危険箇所の早期発見⑯ (5)自然災害避難時等における安全計画の再確認及び危機管理意識の徹底⑰	
		4 地域とともにある信頼される学校づくり	(1)地域の小・中学校等と連携した教育活動の展開⑱ (2)ボランティア活動や部活動を通じた地域行事への積極的な参加⑲ (3)信頼される学校づくりを目指す、教育活動の広報(ホームページ、新聞等)⑳ (4)保護者や学校評議員等との緊密な連携㉑ (5)地域関係機関との連携による、地域から信頼される学校づくり㉒	
		5 働き方改革の推進	(1)勤務時間の管理と適正な勤務時間の設定及び勤務時間削減に向けた取組㉓ (2)業務の役割分担と適正化にむけた P D C Aサイクルの構築㉔ (3) I C T機器を活用した業務の効率化㉕ (4)同僚性、協働性を高める学校組織づくりの強化㉖ (5)コスト意識を高め、公務員としての自覚を持って職務に当たる意識の徹底㉗	

別紙様式 2 (高)

三つの方針		具体的目標			
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	1 幅広い教養としなやかな知性を身に付け、自ら考える力を磨くことで、これからの時代を切り拓く力を育成します。 2 規範意識の醸成を図るとともに他者を思いやり、命や人権を尊重する、心豊かな人間を育成します。 3 社会の中核として活躍するために、協働学習、探究活動、部活動、学校行事等を通して、人と関わり高め合えるコミュニケーション能力を育成します。			
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	1 新たな時代を創り、社会に必要とされる、自らの意志で学ぶ力と、人生をより豊かに生きる力を育成します。 2 ICTを活用し、他者とながら高め合う協働的な学び合いを推進し、これからの IT 社会で求められる ICT 活用能力を身に付けます。 3 探究力を育む教科横断的・課題解決型授業の実践を通して、課題発見・解決能力の向上を図ります。			
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	1 本校の歴史ある校風や教育目標に共感し、主体となって教育活動に取り組む熱意ある生徒を募集します。 2 豊かな人間性と社会性を身に付け、社会の中核を担い活躍したいという志を持つ生徒を募集します。 3 心が優しく、集団の一員として他者と協働で学ぼうとする姿勢を持ち、自ら考え積極的に行動できる生徒を募集します。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題	
教科指導	各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。	・年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。			
		・常に授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。			
		・より効果的な観点別学習状況の評価法を研究、推進する。			
		・効果的な ICT の活用をさらに推進し、授業改善に取り組む。			
国語科	1 基礎学力の定着と応用力の伸長(1①③)	・基礎知識の習得と、学びの到達度を生徒に客観的に認識させることを目的に問題演習や小テストを定期的実施する。			
		・知識を生かして自ら読み解く力や論理的に考える力を高めるために学習形態の工夫や学習材（ICT 機器等）の効果的な活用を図る。			
	2 課題解決型の学習による思考力・表現力の育成 (1②③④⑥)	・自己及び他者との対話の場面を取り入れた学習や探究型の学習など、学びを深める学習機会を設定する。			
		・学年、図書部と連携して小論文学習・読書指導の推進を図る。			
	3 自主的・能動的な学習姿勢の確立(1①⑥)	・主体的に学びに向かう姿勢を育むため、生徒の実態に即した自主学習課題を設定する。			
		・ICT 機器も活用しながら目標設定と振り返りを行うことで、PDCA サイクルを構築させる。			
地理歴史 公民	1 授業内容の工夫・充実 (1①②③)	・課題の発見と解決に向けた探究型の指導を取り入れた授業の工夫を図る。			
		・「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った指導を取り入れた授業の工夫を図る。			
		・大学入学共通テスト、私大記述、国立二次に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。			
		・主権者教育推進のため、時事問題を取り入れた授業展開を図る。			
	2 カリキュラムの検討継続 (1④⑤、2①②)	・指導に生かす観点別評価基準の工夫改善に努める。			
		・SSH指定校として、文系科目におけるきめ細かな指導の検討を継続させる。			

別紙様式 2 (高)

	3 視聴覚機材の有効利用 (1①②)	・各分野における視聴覚教材の積極的活用と活用方法の検討を継続させる。 ・電子黒板とタブレット端末を連動させる等の工夫を凝らし、ICTを積極的に活用した授業を推進する。その際、他校の取り組みなどを参考にしながら、充実した活用を進める。			
数学	1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(1②③)	・問題集や演習ノートを活用し、基礎計算力の充実を図るとともに、家庭における学習習慣の確立を図る。 ・小テスト等を実施し、基礎力の定着を図る。			
	2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。(1②③)	・小テストや定期考査の結果を活用し、学力の強化を図り、演習ノート等の提出を通して個別に指導助言を行う。 ・習熟度を考慮した希望者課外を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。			
	3 SSH事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(1⑤2①)	・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。			
理科	1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探究する能力と態度と視点を養成する。(1①②③④⑤)	・自然の原理・法則の理解を深め、思考力・判断力・表現力を身に付けること等を目的とし、探究的な授業形態を通して個に応じた指導や、および創意工夫をした実験・実習を行う。 ・教科横断的な取り組みや身近な科学的事象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。			
	2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を推進する。(1①②③④、4①②)	・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。研究手法や科学的思考力など、課題研究に必要な能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、教科横断的な取り組みを通して、実践的な活動を円滑に進める。 ・「小・中学校サイエンスサポート」を積極的に推進し、地域の教育活動と連携し、科学への夢を育むために教育支援を行う。			
保健	1 評価活動の工夫及びICT機器を利用した授業の実践(1①)	・ICT機器を活用した授業を実践する。また、身に付けたい学力についての評価を工夫し充実させる。			
	2 「生きる力」を身に付けさせる授業	・実習を取り入れた授業(アルコールパッチテスト・心肺蘇生法)や視聴覚教材やメディアの活用、グループでの課題学習等を通して、健康に関わる意志決定や行動選択ができるよう授業を実践する。			

別紙様式 2 (高)

体育	1 ICT 機器を利用した授業の実践及び評価活動の工夫 (1 ①)	・ ICT 機器を利用した授業を実践し、種目ごとの観点別評価活動の具体化と、学年の進行に合わせた身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。			
	2 集団行動を身に付けさせ、日常生活に活かせるようにする。(3 ①)	・ 集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。また、グループ活動を通して思考力・判断力・表現力を身に付けさせる。			
	3 体力・運動能力の向上及び、生涯スポーツへとつながる授業を実践する。(1 ①②③④)	・ 種目の特性や楽しさに触れ、個人及び集団の活動を通した課題解決学習を実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながるようにする。			
芸術	1 個性豊かな人間性と情操の育成 (1 ①②、3 ①)	・ 感性を高め、生涯にわたって芸術を愛好する心情をはぐくむために、展覧会や演奏会等の案内をし、近隣の美術館やホールで作品等に触れる機会を増やす。また、ICT 機器等を活用し、課題解決型授業の実践により、創造力や表現力を涵養する。			
	2 基礎表現力の育成と学習環境の整備 (1 ③④、3 ②④)	・ 芸術 3 科間の協力を推進し、生徒の実態に応じた丁寧な指導により、基礎表現力をつける。その上で、意図に応じた表現方法や表現技法を創作活動に生かす。また、学びやすい学習教育環境となるよう整備に努める。			
	3 個人の能力・進路に応じた指導 (2 ①)	・ 芸術の幅広い活動を通して、芸術的な見方・考え方を深化させる。また、芸術系大学進学希望者の進路を実現させるための教育課程や年間計画を立案し、個の能力に応じたきめ細かな指導を行う。			
外国語(英語)	1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(1 ①②③、2 ②)	・ 英語の基礎学力の定着と向上を図る。			
	2 授業において幅広い言語活動を行いながら、4 技能をバランスよく指導する。 (1 ①②③、2 ②)	・ ALT との TT やディベート活動を通して、英語を用いて情報を整理し、論理的思考に基づいたコミュニケーションを積極的に図ろうとする態度を育成する。			
		・ 大学入学共通テストへの対応の充実と英作文指導を継続的に行うとともに、希望進路に対応したきめ細かい受験指導をする。			
		・ 英語表現や論理・表現、サイエンス・イングリッシュの授業を通して、英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。			
家庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(1 ①、③)	・ 最新の情報を精選して教材として使用する。			
	2 実験・実習、体験学習の工夫(2 ②、3 ③)	・ 衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる ・ 実験や実習、実物の提示、グループワークを多く取り入れ、限られた環境の中で、1 回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。			

別紙様式 2 (高)

		・被服製作作品、課題プリントレポート等を期限までに主体的に取り組ませる。 ・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。			
	3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進 (2②)	・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。 ・家庭クラブにおける研究内容の充実を図り、昨年度同様の成果をあげられるよう計画的に研究や発表準備を進めていく。			
教務部	1 探究力と学びに向かう力の育成を踏まえた教育課程の編成 (1①②③④⑤⑥)	・SSHの研究成果を活かし研究題目を踏まえた教育課程を編成する。 ・教育課程の自己点検、自己評価を通して、水戸二高の将来像を見据えた、新教育課程の研究に努める。 ・教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。			
	2 各分掌間の円滑な連携と授業時間の確保 (5②④⑤⑥)	・校務分掌の円滑な運営と連携を図る。 ・学校行事等の精選を行い、授業時間を確保する。 ・週ごとに授業交換を行い、自習時間のない時間割を編成する。			
	3 情報管理の徹底と安全性の研究と成績処理 (5⑤)	・授業の動画配信について、より適切に活用できるよう研究する。 ・校務支援システムが円滑に運用できるよう努める。 ・ファイルサーバーのセキュリティについて研究し、スムーズな運用に努める。			
	4 ハード・ネットワーク、視聴覚機器の管理 (1①、5⑦)	・タブレット、電子黒板、教室用PC等のICT機器やwifiの維持管理に努める。 ・消耗品の在庫の管理に努める。 ・ネットワーク上のトラブルに速やかに対応できるよう研究する。 ・視聴覚設備、放送室・体育館の放送設備の適切な管理、運営に努める。			
	5 開かれた学校づくりの推進 (4⑱⑲⑳㉑㉒)	・学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。 ・ホームページの更新頻度を維持し、さらなる充実を図る。 ・公開授業参観をさらに充実させる。 ・常置委員会と連携し、生徒を主体とした学校PRを積極的に行う。			
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立 (3①)	・公共マナーの向上を目指し、マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登校指導を行い、生徒一人ひとりの規範意識を高める。 ・スマホ家庭のルールづくり運動を行う。また、ICTの活用に関するルールづくりを行う。 ・不審者や痴漢被害等に対して、警察と連絡を取り、生徒の安全を守る行動を行う。 ・生徒会と協力して、生徒の生活について検討する。			
	2 交通安全指導の推進 (3	・茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し、自転車の安全運転指導や交通講話を行う。			

別紙様式 2 (高)

	①)	・交通安全週間に合わせて生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。			
		・自転車安全点検（2回）を行う。			
	3 いじめ未然防止・早期発見 (3②)	・学校生活実態調査（3回）を行う。			
		・いじめについて保健厚生部と研修会を企画し、いじめ未然防止授業を行う。			
		・教員間で生徒情報を共有する。			
特別活動部	1. 自主的活動の育成 (2⑩⑪4②)	・生徒会を中心に、学校行事・委員会活動・リーダー研修会（前後期2回）・ホームルーム活動・部活動等、積極的に取り組みリーダーを育成する。			
		・学校内外の教育環境に自主的に関わり、行動する姿勢を育成する。			
		・コロナ禍の状況の中で工夫をしながら自主的に活動できる力を育成する。			
	2. 奉仕の精神の涵養と環境に対する意識の高揚(2③4②)	・校内外のイベントなどにも積極的に参加することで奉仕の精神を育成する。			
		・環境問題に継続して取り組み、節電・ペットボトルキャップ回収等を行う。			
	3. キャリア・パスポートの活用および推進(2⑧)	・学校行事や毎日の生活を通して自己を見つめる姿勢を身につけ、キャリア・パスポートを活用して自己の将来が見通せるように働きかける。			
進路指導部	1 進路に対する意欲の向上、学習時間の確保と自学自習力の育成指導(⑦⑧⑭)	・進路講演会をはじめ、キャリアガイダンス・大学見学会・大学模擬授業など、これまで実施してきた行事の継続と内容の深化を図る。			
		・全学講座（年間13日）や課外を効果的に計画・実施する。特に、長期休業中の課外については生徒の要望を踏まえて、柔軟且つ弾力的に運用する。			
		・1学年の段階から幅の広い情報提供を行い、生徒の進路希望の視野を広げる。なお、自学自習の習慣化を図るために、集中学習会を1学年と2学年で実施する。特に2学年においては、早めの受験体勢への切り替えを図っていく。			
	2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(⑦②④) 3 生徒の第1志望実現のための援助促進、難関私立大学を含む国公立大100名以上合格の達成(⑦⑧)	・予習・授業・復習の学習習慣を定着させる。2年次までに英語・数学・国語の3教科の基礎力を養い、3年次で地歴公民や理科の学習を中心に据えるよう、3年間を見通した学習の在り方を指導する。			
		・生徒の適性や興味関心を踏まえた上で、適切な文理選択ができるように情報を提供するなど学年に協力する(特に1学年)。			
		・進路資料・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進する。			
		・卒業生から聞く学習法(OGインパルス)を2年生対象に開催するが、可能な限り1年生にも機会を拡大する。			
		・保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、生活・学習面のバックアップ体勢を築く。			
	3 生徒の第1志望実現の	・大学入学共通テスト出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施を行う。			

別紙様式 2 (高)

	ための援助促進、難関私立大学を含む国公立大100名以上合格の達成(⑦⑧)	・生徒の個性に応じて、推薦入試活用の助言を行う。			
		・各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。			
		・新学習指導要領の実施、大学の学部学科改編など、本校を取り巻く環境の変化に対応し、最良の教育課程を絶えず模索する。			
		・大学入試改革に対して万全の対策を図るとともに、各大学の受験情報の収集に努める。			
図書部	1 「読書センター」としての機能充実(1③⑥)	・前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHR でビブリオバトル(前期)を行う。			
		・LHR 等を利用して読書活動を支援する。			
		・図書等の資料の充実に努めるとともに、資料提供の工夫をする。			
		・電子書籍の購入についての検討を継続する。			
	2 「学習センター」「情報センター」として資料の提供および利用指導の充実(1③④⑥、2⑦、4⑩)	・各教科や進路指導部と連携しながら、生徒に役立つ資料を充実させる。			
		・小論文や面接の指導における資料提供を積極的に行う。			
		・課題解決型学習が円滑に行われるように図書館の環境を整える。			
		・現在使用している全ての教科書を閲覧できるようにしておく。			
		・学校のホームページの図書館の専用ページ「水戸二高図書館」を充実させる。			
		・職員からの図書購入希望に随時対応する。			
		・視聴覚資料の充実を図る。			
	3 生徒図書委員会の充実(1⑥、2⑩)	・必要に応じて適宜生徒図書委員会を開く。			
		・図書委員による授業に役立つ本の展示や図書館カフェ等を積極的に行う。			
		・「図書館便り」「図書館報」の発行を行う。			
		・生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。			
		・生徒図書委員の校外研修を行う。			
		・中央・水戸地区の生徒図書委員研修会に参加する。			
保健厚生部	1 健康の保持増進(3⑭⑮)	・心身の相談活動を推進する。			
		・職員間の情報の共有			
	2 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備(3⑯⑰)	・防災対策を含め、校舎内外の安全点検を行う。			
		・危機管理マニュアルの見直し・安全計画の再確認。			
		・ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。			
		・換気・健康チェック・手指の消毒の徹底。			
	3 奨学生関連事務の的確な運営	・奨学生募集の情報を確実に伝達する。			
		・提出書類作成手続きの指導を適切に行う。			
		・関係する分掌や学年と連携、協力して円滑に実施していく。			

別紙様式 2 (高)

渉外部	1 P T A 活動を円滑に実施する。⑨	・ P T A 役員及び各種委員会委員と学校との協力体制の構築に努め、「 P T A だより」をとおして教育活動を家庭に伝える。			
		・ 保護者からの要望に耳を傾けながら、 P T A 役員間の信頼と連帯強化を図る。			
	2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。⑩	・ 学習諸活動の環境整備、および学校活性化のための提言を行う。			
		・ P T A の諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に活かす。			
	3 同窓会「秀芳会」との連携 ⑫	・ 連携をさらに推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。			
教育デザイン部	1 S S H 事業の推進 「水戸二高 S S H サイクルや主体的・協働的な学びを活用した、科学技術を牽引できる女性の育成」 (1 ①②③④⑤⑥ 2 ⑦⑧⑪ 4 ⑬⑭⑮⑯⑰⑱)	(1) 科学教育プログラムにより、科学に対する興味や関心、知識、理解を深め、科学的思考力を育成する。 ・ 百合セミナー (S T A R T プログラム・ S S H 講演会・自然科学体験学習) ・ 自然科学 A・B ・環境科学 ・水戸二高環境科学フォーラム ・ データサイエンス特別講義 ・国際性を高める取組			
		(2) 科学研究プログラムにより、科学技術を牽引できる女性としての発想力や問題解決力を育成する。 ・ S S 課題研究 ・ S S 理科 I・II ・サイエンスイングリッシュ ・ サイエンスツアー ・ S T A E M コンテスト ・科学部・家庭クラブ ・ 研究発表会および交流会 ・科学系の専門家および科学系大学院生によるサポート			
		(3) S S H の取組によって得られる効果についての共通理解			
		(4) S S H 事業の精選と進化 (類型・コース、学校設定科目の再考等)			
		(5) 環境科学、総合的な探究の時間の検証・評価と、新たな探究プログラムの開発			
		(6) 探究の学びの評価方法と効果的指導方法の開発			
	2 国際理解教育の推進 (1 ③⑥ 2 ⑦⑧⑨⑩⑪⑫ 4 ⑬⑭⑮⑯ 5 ⑳㉑㉒)	(1) 多様な文化や価値観を持つ人々との交流を通して、グローバルな視野を育成する。 ・ 国際理解講演会 ・日本文化鑑賞会 ・国際理解活動や交流会への参加 ・ グローバルフォーラム ・グローバルウィーク ・グローバルカフェ ・道徳講演会			
		(2) グローバルリーダーを育成する。 ・ 海外研修 ・海外進学および留学の支援 ・グローバルクラブ			
		(3) ユネスコスクール加盟の是非			
		(4) 外部講師による特別講座の実施			
	3 探究・教科横断的学習の推進 (1 ①②③④⑤⑥ 2 ⑦⑧⑪)	(1) 探究の学びに関する教員研修会・研究協議会の実施			
		(2) 探究テキストの更新と公開			
		(3) 生徒成果の発表・公開、学校 HP の随時更新			
	4 積極的な情報発信	(1) 校内での情報共有を進めるとともに、掲示板の積極的活用と充実を図る。			

別紙様式 2 (高)

	(4 ⑱⑳㉑㉒)	(2) 学校HPによって、諸活動を随時発信する。			
事務部	1 学校の窓口としての的確な接遇を行う。	・電話や窓口等においては、誠意ある態度・応対によって県民サービスの向上を図るとともに、生徒や保護者との関わりを通じて相互の信頼関係を高めるよう取り組む。			
	2 予算を計画的・効率的に執行する。	・限られた財源の中、将来を見通した教育環境整備を図るため、計画的・効率的に予算を執行する。			
	3 安心安全な学校生活のための施設管理を行う。	・学校施設の日々の点検及び迅速な修繕により、生徒が安心安全に教育活動を行える教育環境の設備・保全に取り組む。			
第1学年	1 高校生としての生活習慣の確立(2(4)(5)3(1)4(2))	・個人面談等を通じて高校生としての自律的な生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。			
		・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。			
		・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、安全で落ち着いた学習環境を整える。			
		・部活動・ボランティア活動等などの特別活動を通じて、協調性やリーダーシップを育てながら、学校生活の充実を図る。			
	2 学習習慣の確立と学力向上(1(2)(3)(5))	・「予習・授業・復習」の学習サイクルを確立するなど、家庭学習を習慣化することで授業内容の定着を図る。			
		・生徒が学ぶことの意義を理解し、意欲をもって主体的・能動的に学習に取り組めるよう支援する。			
		・「道徳」における探究活動を通して、自己の在り方生き方について考えさせるとともに、資料を活用する力やプレゼンテーション力を養成する。			
	3 進路意識の涵養(2(1))	・LHR・個人面談や、進路講演会・キャリアガイダンス・大学見学会などの進路の行事を通して、生徒が自分の将来について主体的に考え、適切な文理選択ができるように支援する。			
第2学年	1 進路目標の明確化(2①3②③)	・進路講演会・大学模擬授業などの進路関係行事を効果的に実施し、進路意識の向上を図る。			
		・進路指導部の連携を密にし、生徒に向けた的確な進路情報の提供に努める。			
		・個人面談等を通し、生徒が自分の適性や将来の希望とそれを実現する手段について理解するのを手助けし、自己実現のための助言を行う。			

別紙様式 2 (高)

	2 生活習慣・学習習慣の確立と学力向上 (3①1②)	・授業を中心として、生徒が学ぶことの意義を理解しながら、意欲をもって主体的・能動的に予習や復習等の学習に取り組めるように支援する。			
		・学習記録等を利用しながら、安定した生活スタイルの確立を促し、高校生活を有意義に過ごせるように支援する。			
		・公共マナーや社会ルールを身につけ、品位ある行動がとれるよう指導する。			
		・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、安全で落ち着いた学習環境を整える。			
	3 特別活動等の充実 (2②③④1③④⑤)	・白百合セミナーを通して、多様な歴史や文化を受容できる力を育成するとともに、環境問題への適切な認識や取り組みができるようになるための支援をする。			
		・調査や研究および発表に取り組むことで、論理的思考力やプレゼンテーション力を養成する。			
		・特別活動への積極的な参加を支援し、活動の意欲を喚起し、協調性やリーダーシップ等を育てながら、学校生活の充実を図る。			
		・SSH や国際理解等の諸行事を通して、多様な分野における学びを深めるとともに、多様化する社会の中で自己を活かして生きる姿勢を育てる。			
第3学年	1 進路目標の明確化と進路希望の実現 (2⑦⑧)	・面談や講演会、集会等を通して目標の確認を行いながら、計画的に進路希望の実現を図る。			
		・進路指導部と連携しながら入試情報を提供し、生徒、保護者の的確な進路選択を援助する。			
	2 自学自習力の育成と学力向上 (1③⑥)	・家庭学習を記録することを通して、計画的に学習に取り組ませるとともに、優先順位は的確か、無理なく効率的な学習をしているかなど、自己評価させる指導を行う。			
		・学習室、学校図書館等の活用を促し、自律的学習する態度を育成する。			
		・各教科と連携しながら、必要に応じて課外学習や補習を実施する。			
	3 心身の健康と成長 (3⑬⑭⑮)	・健康な学校生活を送れるように、学年と養護教諭やスクールカウンセラーが情報を共有し、各家庭と連携しながら生徒支援を行う。			
		・集会やLHR、行事等をととして、生徒の精神的な成長を促す働きかけを行う。			
	4 特別活動等の充実 (2⑨⑩⑪)	・高校生活の集大成として、諸活動へ意欲的に参加できるよう環境を整える。			
		・学校行事や部活動、委員会活動等においては、リーダーシップを発揮して各集団をまとめ、十分な成果が得られるよう援助する。			

※ 具体的目標最後尾の数字は、第1ページの学校の自由点目標1①～5㉞の関連を示す。

※ 評価基準：A非常に良くできた Bよく出来た C普通 Dやや不十分 E不十分